

ご担当者 様

申込部数 冊

☆☆☆

僕たちが見つけた道標 みちしるべ

福島の高校生とボランティア大学生の物語

兵藤智佳 著

【ボランティア・ヤングアダルト】四六判並製／約二〇頁／予価一五七五円
ISBN 978-4-7949-6906-4 C0036 7月1日配本予定

晶文社
7月の新刊



福祉・教育 ご担当者様

僕たちが見つけた道標

福島の高校生とボランティア大学生の物語

被災者の高校生たちが感じた3.11 ボランティアの大学生が捉えた3.11

福島第一原発のある双葉町。震災とそれに続く原発事故によって日常生活を失われたこの町で双葉高校生たちが抱える、周囲からは見過ごされがちな「普通の受験生の不安」。

そんな福島の高校生たちに、東京の大学生が手を差し伸べる。一週間の勉強合宿を通じ、彼らは次第に心をひらきあい、思いを言葉にし始めた。

<目次>

プロローグ

1. 福島の高校生に起きたこと
東日本大震災と原発事故
大学生ボランティアの合宿準備
2011年 勉強合宿
2012年 勉強合宿
2. 大学生が向き合ったこと
たかひろ〈就活問題〉に取り組む
ゆうひ〈権力問題〉に取り組む
ゆうこ〈格差問題〉に取り組む
まあや〈被曝問題〉に取り組む

エピローグ

あとがき

<読者対象：中学生～大学生、教育関係者など>

第一部は一年半の間に行われた勉強合宿の様子を記録。第二部では、ボランティア活動を通して大学生が考えたこと、自分たちの問題に向き合っていく姿を描く。

◇著者について

兵藤智佳(ひょうどう・ちか)

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教。2006年より、同センターで大学生による自主プロジェクトを主催。本書が初の単著。共著に、『世界をちょっとでもよくしたい』(早稲田大学出版部、2010年)、『DVはいま 協働による個人と環境の支援』(ミネルヴァ書房、2013年)などがある。



福島民報
広告出稿予定

FAXは 03-3518-4944 まで!!

委託配本締切 6月18日

